

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472200338		
法人名	医療法人平成会		
事業所名	グループホームサンライズ1階ユニット		
所在地	大分県速見郡日出町1845-1		
自己評価作成日	平成29年7月17日	評価結果市町村受理日	平成29年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年8月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「この町でその人らしくゆったりと」を実現すべく、日々の生活支援の中よりQOLを見つけ、利用者様が生き生きと楽しく過ごして生活できるよう職員一丸となり利用者支援にあたっています。また安心して安全に暮らしていけるよう異常の早期発見を行い、常勤の看護師を配置し健康管理に留意し注意観察を行っています。認知症に対する介護支援を行って行く中で、日々創意工夫したレクリエーションの提供や声掛けを職員間で話し合い実践しています。毎月の勉強会や院内学会での研究発表、また外部研修に参加し自己研鑽を行い支援に役立っています。また業務推進運営委員会を2ヶ月に1度行い地域の方やご家族に認知症に対する理解を頂き利用者様とご家族に今後も満足して頂ける様地域に開かれたグループホーム作りに努めていきたいと思っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・理念の元で、その人らしく利用者本位の生活が送れるような支援に心掛けている。
- ・母体が病院なので医療面で連携が確保され、又看護師が日中常勤しており安心である。
- ・日々の散歩などで近所の人と馴染みの関係になる様地域との双方向の交流に努めている。
- ・工夫を凝らしたレクリエーションに力を入れて、利用者のQOL維持向上を考え支援に当たっている。
- ・様々な研修を受ける機会を設け職員の仕事に対するスキルを高めようとする意欲が伺える。
- ・朝・夕・おやつは職員と利用者一緒になって手作りを楽しんでいる。
- ・傾聴の気持ちを持って、常に利用者目線でケアに当たっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を目につく場所に掲示し替え歌を作るなどして職員の意識向上に努めている。	玄関やホールなど目につくところに理念を掲示し、ミーティングや申し送り時に職員全員で再確認し共有している。その人らしくを意識して日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として近所の保育園児とのイベントを行ったり地域の行事に参加したり、地域の方々ボランティア等で来設されたりと双方向的な交流を行っている。	御神輿が寄って来たり、近くの保育園児が来訪しスイカ割りなどを利用者と一緒に楽しんでいる。朗読・腹話術・ハンドベル・大正琴などのボランティアが訪れている。盆踊りに参加するなど地域との双方向の繋がりが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩や戸外活動に地域に出かければ挨拶したりおしゃべりしたり、季節ごとに庭に咲いた花を持ってきて下さりお庭を案内して下さる近隣住民との交流を行っており認知症に対する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開催し事業所の活動報告等を行い参加者より質問や意見交換を行いサービス向上に努めている。	町の担当者・区長・家族が参加し、2ヶ月に1度運営推進会議が開かれてる。会議で出された質問や依頼などを検討しケアの改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場の担当者が参加し助言や意見交換を行う事で連携を図っている。	町主催の会議には必ず出席し、事業所の取組みを発表したり、疑問や問題点あれば町に相談している。運営推進会議の資料に介護度を入れたらどうかという提案を受け、取り入れるようにした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを努めている。機会があるごとに職員に説明を行っている。また学ぶ機会を職員間で持ち、身体拘束についての共有認識を図っている。	内部研修を毎月行っており、常に拘束はしないと言うことを意識してケアに当たっている。見守りと傾聴を職員全員で徹底している。以前、センサーを使用したことがあるが安全のためという事を本人家族の同意を得て行ったが現在は使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員に説明を行っている。また、学ぶ機会を職員間で持ち、必要な入居者様には活用してもらうように説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にゆっくり時間をとり入居者様及び、ご家族様に納得してもらえるように説明をしている。また重度化、看取りについての対応、医療連携について重要事項説明書やパンフレットを用いて説明を行い了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様より意見、不満、苦情があった場合はすぐに苦情処理委員会で検討している。緊急の場合は臨時で会議を開催するようにしている。早急に対処し業務推進運営会議で改善点も説明するようにしている。	運営推進会議や面会時家族から意見要望等を聞いている。利用者や家族から何か意見等あればすぐ対応している。事業所より意見を促しているが現在のところあまり無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニットミーティングや必要に応じて全体ミーティングを開催し職員の意見や提案を聞くようにしている。また、朝礼でも毎日の業務の見直しや意見交換を行っている。	月1回のユニットミーティングや毎朝の申し送り時職員の意見等を聞いている。年2回の個人面接でも要望等を聞き集約し結果をミーティングで報告している。意見は出しやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ職員の努力目標を立てやりがいや向上心を持って働けるような支援、職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成しており、各自が参加できるように努め院内学会での発表や外部研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、関係者や他の施設職員と情報交換を行っている。また、研修等で知り合ったグループホーム関係者と情報交換や施設見学を行いサービスの質の向上に努めている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にできるだけ入居者の情報収集し面会するようにしている。入所後に話を聞いたり、行動を把握し、苦しみ、不安、喜び等本人の思いを知り過しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。また、話を聞くことで安心していただき、関係作りの構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、実行を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭と同じ環境で過ごしてもらえるような介護に努める中、出来る事はして頂き、共に助け合いながら支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各月の新聞や面接時に入居者様の様子をきめ細かく伝え家族に安心していただけるようコミュニケーションを取っている。また状態変化があった時には連絡し相談しながら今後の対応を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人等が来られた時はゆっくり話ができるよう配慮している。また以前行かれていた馴染みのお店に出かけ関係が途切れない様になっている。	民生委員の訪問があったり、近くの美容院に出掛けている。施設の周りを日常的に散歩をしており、そこで新しい馴染みの関係が出来、会えば会話したりお接待に呼ばれたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性やプライバシーを尊重しながらお互いのコミュニケーションが取れるように配慮し、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど職員が調整役となり支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住まいが変わっても今までの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの課題を明らかにするために資料に沿ってその人らしく生活できるように心がけている。日々のかかわりの中で声掛け、把握に努めている。意思疎通の困難な入居者様にはご家族様や関係者から情報を得ている。	入所時に生活歴・嗜好・趣味などを伺い、日々接している中で表情の変化や行動を見て何を訴えているかを感じ取っている。夜眠れない人にはホットミルクを出したりするなど、本人の望んでいる事を感じ支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にできるだけ入居者様の情報収集し、生活歴、生活環境を把握し、実際入所後に話を聞いたり行動を把握し、できるだけ本人が過ごしやすい環境づくりを職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々のくらしのリズムを理解し個人の状態や生活歴、趣味等を把握した上で入居者様に接している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族には日頃のかかわりの中でご本人の思いやニーズを職員全員で話し合いケアプランに反映している。モニタリングも定期的におこなっている。	ケアプランに沿って支援できているかをリーダーが確認し、毎月職員みんなで計画に対する評価をして3か月に1度管理者がモニタリングしている。本人・家族のその都度の思いを把握し職員全員で話し合いケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれにファイルがあり日々の状況を記録して情報の共有を行っている。また毎日の申し送りで日々の情報の共有も行っている。その後内様に沿った計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見を反映させその人らしい時間をすごしてもらえるように柔軟な介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ入居者の希望や必要性に応じて地域の方々に支援、協力を得ている。業務推進運営会議を開催してから協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の前に協力病院があるがご本人やご家族様の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。	入所までにかかっていた病院を希望すればそのまま継続して受診できる。協力病院があり職員が受診に同行する時は家族に内容を報告している。歯科や精神科の訪問があり利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が常勤で配置しており協力病院であるサンライズ酒井病院の看護師との連携を図っている。看護職員がいない場合は、介護職員の記録のもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の主治医や家族と連絡を密に取り回復状況の確認と情報交換を行い、速やかな退院支援に結びつけている。その場合に病院関係者及びご家族様と関係作りを強化している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を取り決め、入居者様家族様に確認を行うようにしている。主治医とも連携を取るようにし、グループホームが対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	入所時に重度化した場合や看取りについての指針を説明し同意を得ている。急変時の指針を新たに作成し、現在に合った対応を考え、できる事できない事を家族に明示し了承を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し全職員が内容を把握し緊急時や事故発生時に実践できるよう学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練を年2回(そのうち1回は消防署立会い)と消防設備説明の部分訓練を年2回実施し、周知している。また、業務推進運営会議においても近隣の住民に協力を得られるように説明をしている。	年2回の避難訓練を実施している。職員が訓練マニュアルを作成し、利用者も一緒に避難訓練をしている。母体の病院やケアセンターと一緒に協力して行われている。施設内に3日分の備蓄がある。地域の避難場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の一人ひとりの性格や力量を把握し、その人に適した役割や出番等作っている。身体状況を考慮しながら予定を立てている。居室はすべて個室で入居者様それぞれにプライバシーが確保できるように対応している。	本人や他の人が不愉快に思われることは言わないようにしている。だめなどと否定するような言葉は使わない。トイレの利用はケース毎に自室か中央トイレかを考えている。耳元でさりげない声掛けをするように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の一人ひとりの性格や力量を把握し、その人に適した役割や出番等作っている。入居者様の意見を尊重し、身体状況を考慮しながら予定を立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や寒暖に応じて、本人の意思とこちら側からの声かけにて服装に配慮している。外出時やイベント事には四季の彩りなどを本人の意思により好きな洋服を用意してもらおう。美容院には外出してお店に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや配膳をさせていただき食事に関心が向くような働きかけをしている。入居者それぞれに食事の準備、片付けに役割を与え興味がわくようにしている。	朝と夕食・おやつは施設で職員・利用者みんな協力して手作りしている。利用者と一緒に料理や片付けをしている。食べたい物があればメニューに反映している。お正月や誕生会の行事食も楽しみである。年3回外食に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し協力病院の栄養士のアドバイスを受けている。ご本人の好きな物、食べやすい形に出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室にそれぞれ洗面台があり、本人の能力に合った声掛けを行い、自立支援を行っているが介助が必要な入居者様には職員が誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握してさりげなく声かけ誘導を行っている。また、医師の指示がある入居者様は排便、排尿のチェックリストを作成してトイレで排泄できるように支援している。	下肢筋力が衰えないように起立運動に努め、笑ったり声を出したりして筋力維持に努めている。脳トレなども行いできるだけ排泄の自立ができるよう支援している。チェック表で排泄パターンを把握し、日中はトイレに行く事を習慣づけようとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に飲食物で工夫を凝らして、排便パターンを把握している。運動、水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する日、時間に合わせて入浴していただいている。能力に合わせた入浴援助を行っている。一人で入浴可能な入居者様は見守りのみで行っている。安全確認の声がけもしている。	週2回以上入浴できる。希望すればいつでも入浴できる。嫌がる時は無理強いせず入りたい時に入ってもらう。脱衣所は冷暖房完備で快適に入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の内容が把握できるよう服薬ファイルや処方箋は整理している。服薬時はきちんと服薬できているか確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や興味を理解し入居者様一人ひとりの感情表現できるようにしている。。一人ひとりの日頃の様子を把握し訴えや要望がありそうな素振りがみえた時はこちらから声かけ、言葉や気持ちを引き出す努力を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の行きたいところを話の中で聞くようにしており、定期的な外出は希望に沿った支援ができるようにしている。また職員から声掛けして積極的に外出できるようにしている。	季節ごとにドライブをし、安心院のぶどう狩りや別府の公園に出掛けている。毎日の戸外への散歩やゴミ出しなど利用者それぞれの活動や役割りを実施し外の空気に接している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人家族と相談して自己管理が出来る利用者様は自分で金銭管理してもらい買い物や美容院等の支払が出来るよう支援をしている。出来ない入居者はグループホームで預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状と暑中見舞いを欠かさず行い、入居者様の希望に応じて日常的に電話をする支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分に畳、ソファを設け、すべての場所で家庭的な雰囲気の物を使用し、居心地のよい環境を提供できるように努力している。入居者様と一緒に考え自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。	沢山ある窓は大きく、採光が良い。ソファやイスが置かれゆっくりつろげるように工夫されている。行事の写真が飾られ楽しい雰囲気がかもし出されている。冬の中央トイレは寒く冷気が入らないようにビニールを貼って対処している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳と廊下等に椅子を設けており思い思いの場所で過ごせるよう工夫をし落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。廊下から中庭を眺めながら、入居者間でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家で使われていた馴染みの品を持ち込んでもらうようにし、個人で準備した品等を使用してもらっている。持ち込みが少ない方は職員と本人が相談しながら温かい雰囲気を出すように努力している。	これまで使っていた物を自宅から持って来て飾っている。家族の写真やお好みの小物などを飾り落ち着いた雰囲気の部屋づくりになっている。あまり物を置かない方が落ち着く利用者もいて個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に一人ひとりの能力に応じて役割をあたえ自宅の様なホームづくりをしている。		